

平成30年5月

新鮮組

第74号

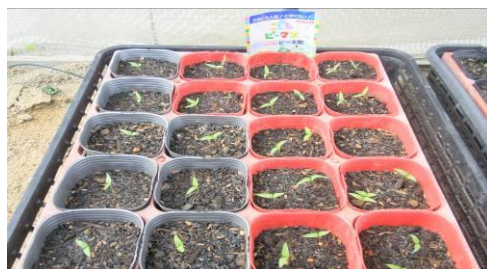


ようやく日中も暖くなり、ポカポカ陽気になって来ました。5月にはお待ちかね、ゴールデンウィークが待っていますね。旅行等、皆さんはどのような計画を立てていらっしゃるのでしょうか？ 最終日になると交通機関も混雑が予想されますのでそれも考えに入れるのを忘れずに。くれぐれも皆さん事故が無いように安全運転を、お願い致します(^O^)/

3月は雨量がとても多かったですね。寒暖差も大きかったけれど4月に入るとだいぶ過ごし易くなってきました。まだヒノキ花粉は飛散していますが鼻の具合は皆さんいかがですか？ 鼻炎に悩んで苦しんでいる方も多いと思いますが（私もですが^^;）なるべく早く治したいものですね。



夏野菜の苗を栽培中！



3月下旬にかんぴょうとかぼちゃとピー太郎の種をポットに植えました。ポットに培養土を入れたそのあとに指の第1関節のところまで穴をあけて種を植えました。まだ芽が小さいですが、これからぐんぐん大きく成長して大型連休が明けた頃には、畑に移植する予定です。この他にはキュウリやトマトやスイカを植えます。植えた後はこの新聞にてご報告させていただきます。どうぞ楽しみに

ジャガイモを植えてます



ニンニクと玉ねぎの成長の様子です^^



ニンニクに追肥しています^^



椎茸の原木です



鯉のぼりの由来について



江戸時代にまで遡ります^^。戦国時代を終えて、江戸幕府が日本を治めるようになると、端午の節句 は将軍をお祝いする日となりました。端午の節句は、香りの強い菖蒲を飾って厄除けをする習慣があったので、「勝負」を連想させ、将軍に縁起がいいと考えられたのです。将軍に男の子が誕生すると、将軍と合わせて、その男の子のお祝いもされました。この将軍の子供をお祝いするときに、のぼりを立てる習慣がありましたが、これがやがて徳川家に限らず、一般の武士へ浸透。男社会である武士の家にとって、やはり男の子は、待望の跡取り候補だったのでしょね。男の子のお祝いののぼりに、その家の紋が付いたのぼりがあげられました。政治が安定し、国全体が豊かになると、のぼりの風習を、庶民たちも取り入れるようになります。ただ、武士ほど「家」にこだわりがない庶民は、家紋ののぼりをあげる気にはなりません。そこで考えだされたのが鯉のぼり。鯉は錦鯉などの優雅で美しいイメージに反して、さほどキレイでない場所でも生きられるたくましい魚。鯉のように、どんな環境でも逞しく、大きく成長してほしいと願いが込められています。3月中旬から5月上旬にかけて、岐阜県垂井町の相川水辺公園では凡そ350匹もの鯉のぼりが上空に掲げられます。そして相川の堤防沿いには約200本ものソメイヨシノが植えられている事も有って、相川水辺公園は桜と鯉のぼりが同時に楽しめる、知る人ぞ知る人気のお花見スポットとして親しまれています。桜の開花時期にもなると、河川敷はお花見を楽しむ人々で賑わいは最高潮。子供達は鯉のぼりの下を駆けまわり、大人達ははしゃぐ子供達を眺めながら、お弁当にビールに舌鼓を打つ。嗚呼！お花見っていいなあ！

新鮮組メンバーでバーベキューしました



桜が満開を迎えた4月2日にバーベキューをしました。風が心地よくて少し汗ばむ陽気でしたけれど、日頃のストレスを発散しながら楽しく会話も弾んだりしているうちに、あっという間に過ぎてしまいました。久しぶりに参加したので満足感のある時間を過ごす事が出来て良かったです。

実際こんな風に 新聞紙面を作っています

あすなる新聞のこの欄は実は、おなじみAYとピアサポN君が担当なのですが、いつも月はじめに二人力を合わせて一気に作り上げています。出来上がった原案は上司に提出して最終チェックをしてもらっています。あすなる相談支援事業所の事務所は2階にありますが、1階はいつも誰でも来て過ごして頂いても良いように「居場所スペース」になっていて、紙面づくりのこの日だけは、実際の作業は前号でも紹介した「ビーズづくり」のすぐ横で作業をしています。同じ時間、畑の方では農作業にいそしむ仲間も頑張っていて、みんなそれぞれに得意分野で活躍しています。

